

市制 20 周年記念



未来へ続け！

～北浜の伝統行事・農業～



北浜小学校

令和 6 年度 5年生の取組

かしらまい
北浜の獅子舞「お頭 舞」

一般では獅子舞といわれますが、北浜や宮川流域周辺では「お頭舞」と言います。村松では2月に神事祭礼が行われます。神事祭礼とは町内をまわって町や町民に悪いことがおこらないようにという思いを込めて舞うものです。そして平和を願います。

先代のお頭さん

先代のお頭さんは、1519(永正 16)年に修理をした記録があり、505 年前にはすでに「お頭舞」が行われていたことがわかっています。先代のお頭さんは宇氣比神社でしか舞いません。それは、二代目に神様が降りて、町内を災いから守っていくためです。

二代目のお頭さん

二代目のお頭さんは、1982 (昭和 57) 年に奉納されました。

※お頭さん…獅子の頭のこと



刀抜きの様子

お頭舞は太鼓と笛の音に合わせて舞います。序曲、ヤマタノオロチが山のほこらに眠っているところから始まります。舞は中守・初段・二段・三段・四段・五段・(六段)・スラエ・御礼・へいばいがあります。

神事祭礼の中で刀抜きという行事があります。通りに張られた縄を季節の境と見立てて、手前を「冬」、奥を「春」として若い衆が希望に満ちた春をむかえんと押し合う中にお頭さんがその中に入ります。そこで、縄が切られると、若い衆は「一番春」を目ざして競争します。



舞っている様子



子どもお頭舞の練習の様子

村松の盆踊り

・盆踊りの日

盆踊りは昔は7月15日に行われていましたが、明治時代になってからは、8月15日に行われるようになりました。

・盆にすること

ぼんすすはき しょう
盆煤掃と称して家の掃除をして仏間などを
しょうろう
清め精霊さんをむかえます。

※精霊さん…先祖の霊

・盆踊りをする理由

精霊さんが帰ってくる場所がわかるようにし、さびしくならないように踊ります。そして、お経を読んでもらうために家に来てもらう盆参りがあります。



盆踊りを踊っている様子

地域の人に聞いた話



現在はCDなどで盆踊りの曲をかけていますが、以前はカセットテープでかけていました。昔は11曲でしたが、今は8曲になっています。以前の盆踊りは、着物を着て踊る人が多く、花火は行われていませんでした。また、農協の裏の大きい倉庫のような場所で活動していた青年団が盆踊りを開催していました。今は若い人たちが少なくなったので、青年団がなくなり、町会が盆踊りを開催しています。昔の盆踊りは、お寺と浜辺で1日交代で3日間行われていましたが、現在では盆踊りを2日間（今年は1日）行っています。現在も使用されている盆踊りの曲である「伊勢は村松夫婦節（いせはむらまつめおとぶし）」は平成26年に作られた曲です。

2024年の盆踊り

盆踊りは「炭坑節」「東京音頭」「さんさんさんば
「伊勢音頭」「伊勢は村松夫婦節」「いわきやっち
き」「ダンシングヒーロー」「しょんがいは」の8曲で
した。毎年踊られている曲は「ダンシングヒーロー」
で、その時が1番盛り上がります。1番盛り上がる曲
である「ダンシングヒーロー」を踊っている時に5分
間花火が打ち上がります。花火は人を集めたり、楽し
んでもらったりするために行われています。

北浜の農業

普段私たちが食べている野菜や米などはどのようにして私たちの元へ届いているのかが気になり、北浜の農業について調べることにしました。

【北浜が農業に適している理由】

北浜は地形がとても平らで平地が広がっています。元々、平らだと土地を平らに整地する必要がないためすぐ田畑を作ることができます。

また、のどかな田畑に適している風景に彩られたこの北浜には宮川から、新鮮で栄養豊富な水が流れています。そのため美味しい作物をたくさん作ることができます。



北浜で農業をしている人の話②

私の家では米や、とうもろこしを育てています。私の家の米の種類はコシヒカリです。コシヒカリは甘さがあり粘りが強く、とてもおいしいです。

米は栄養がとてもあるので、ジャンボタニシが米を食べに来てしまいます。そのため、ジャンボタニシを見つけ、駆除しなければならないのです。このような大変なこともあります。米作りは楽しいです。

北浜で農業をしている人の話①

私が作っている野菜は、玉ねぎ、長ネギ、スナックえんどう、ニンニク、ゴーヤです。一番大変な野菜は、玉ねぎです。なぜかというとしゃがんで作業をするととても腰を痛めてしまうからです。そして一番作りやすい野菜はニンニク、ネギです。ニンニク、ネギは臭いが強いので、害虫に食べられないからです。



北浜で育てられているネギの写真

北浜小学校の米作り

村松ふるさと保全会の方々にご協力いただき、北浜小学校の高学年は、米作りや稲刈りを北浜小学校の近くにある学習田で行っています。

また、学習田で育てている「神楽米」という餅米を使い、1月には餅つきが北浜小学校で行われ、全校児童にふるまわれました。田植えは実際に自分たちでやってみると、とても根気が必要で、体も痛くなりました。現在では機械を使い田植えや稲刈りがされていますが、昔の人はこんなに大変なんだと感ずることができるととても貴重な体験となりました。



北浜の田植えと
稲刈りの様子



北浜の田んぼ



餅つきの様子

北浜のかんこ踊り

(1) 北浜のかんこ踊りとは？

北浜のかんこ踊りとは先祖祭りの一つで、今年亡くなった人たちを極楽浄土（ごくらくじょうど）に送り届けるための踊りです。かんこ踊りを踊ることは、念仏やお経を唱えるのと同じことです。そして、みんなが楽しく踊っているだけではなく、

「～（亡くなった人の名前）の念仏を申しましょう。」

と言い、その他の人たちが、

「そりゃよかろう。」

と応え、かんこ踊りが始まります。亡くなった一人一人の名前をかんこ踊りの念仏で唱え、

「極楽浄土に行ってくださいよ～。天国で元気でね～。」

という思いを込めかんこ踊りを踊っています。



花火の中に極楽浄土があり、
その中に亡くなられた人がいて、「極楽浄土に行ってくださいよ～」と思いこめて花火の中で踊っています



かんこ踊りを12人で踊ろうとしている大人たち

(2) なぜ8月14日にやるのか？

8月というとお盆があり、お墓参りをしたり、家族や親戚と集まったりします。家族や親戚が集まるお盆の日に、お寺のお坊さんが各家庭に来て「南無阿弥陀仏」とお経をあげてもらうのと同じように、夜は亡くなられた人が成仏し、極楽浄土に行くことができるようにとの思いを込めてみんなでかんこ踊りを踊っています。

丸い円があり、1人亡くなると12人で丸い円の中に入って踊り、例えば2人亡くなると24人で踊ります。

（３）準備は何ヶ月前に行うのだろうか？

本番は８月１４日（お盆）ですが、事前の準備は７月の下旬頃から始まります。倉庫にしまっている「かんこ（太鼓）」や様々な道具を出してきて、それを日に当てて「今年も使えますように。」という思いをこめて「どうようぼし」が行われます。

「つつ」と「かわ」という「かんこ」にはってあるものを、「ひも」で巻いて太鼓のようにしたものを「かんこ締め」といい、「かんこ締め」をして「かんこ」を作り、３・４日間練習が行われます。８月１４日（お盆）の本番に間に合うように、このような準備をしているのだそうです。

有滝町会長さんのお話

有滝町のかんこ踊りは１００年以上続いており、亡くなった人たちをご供養するために先祖祭りを続けています。

できればずっと続けて残していきたいですが、高齢化が進み参加する人たちがお年寄りの人ばかりになってきているので、中学生や小学生の子どもたちに歴史などに興味を持ってもらい、たくさん参加してもらいたいです。そして有滝町のかんこ踊りを残していってほしいと思っています。

みなさんが、かんこ踊りに興味をもってくれるのはとても嬉しいです、かんこ踊りについて学んでいくことが大切だと思います。



かんこなどの準備をしている大人たち

太鼓を持って、みんなで押し合いながら花火の中に入っていきます



かんこ踊りの歌

さ～な～む（左を向いて南無）
う～あ～み（右を向いて阿弥）
ど～～ばい（同拝、同じように拝んで）
よいやさ～よいやさ～
（世のいやさかを願うために）
さ～え～（回向しよう）
そ～え～や（回向しよう）

村松祇園祭

①祇園祭（天王祭）とは

亀池神社からスタートし、山車に神様を乗せて町内を一周して、また亀池神社まで戻って来るお祭りです。神様を乗せて町内をめぐり、災いなどを追い払ったり、また田畑を害虫から守ったりするため、祇園祭（天王祭）をやっているそうです。でもなぜ始めたのかははっきりわかっていないそうです。

②村松町祇園祭でやる事

まず老人会館で行われる座敷はじめでお神酒をいただき、音頭を取ります。その後村松魚港近くからいよいよ山車の出発です。明るいうちから活気あふれる曳き手による練り歩きが始まりますが、日が落ちるとさらに熱気は最高潮になります。所挟^{ところせま}しと並んだちょうちんに一斉^{いっせい}にあかりが灯り、幻想的な雰囲気^{とも}をかもしだします。

③歌（祇園祭で山車を引きながら歌います）

（曲名 祇園囃子（ぎおんばやし）…浜口 惣七さんがつくりました）

一、

今日は文月十四日 日がらもようて
日もようて 祇園座敷で若い衆が
ひきうけました祭礼は
誓うこの日の晴れ姿

二、

朝熊おろしに流れくる 祇園囃子に町の衆が
そろい衣裳でつなを引く
山が行く行く街道は 明日は黄金^{こがね}の波がうつ

三、

夜は不夜城浦浜の 波に輝やく火車の
天下御免の中休み 浜^{まさご}の真砂のあだ情
想いとどけよ漁火^{いさりび}に

四、

提灯^{あかり}の波も港河岸^{かし} 千秋万れい思いもかなう
末は鶴かめ五葉松 おさめを歌う若い衆
にシャンシャンウッテーと月入れ^{いりまし}



歌の練習の様子

④祇園祭の始まり

祇園祭（天王祭）は1970年から始まり、青年団が仕切っていた^{しき}座敷始めの祭りです。

※座敷始めとは……^{ざしき}ざしきという名前のしきものを敷き、そこからお祭りが始まるということです。

⑤楽器

祇園祭で使われる笛や太鼓、シンバルなどの様々な楽器の練習が、老人会館で行われています。本番は座敷はじめの音楽から始まります。

⑥時間

午後7時～9時までの2時間、山車をひいて町を回ります。

⑦着物種類

小学生は背中に祭と書いてあるハッピ、中学生は黄色い着物のようなものと頭に白いねじりはちまき、高校生以上は大人用の紫色の着物を着て参加します。

祭礼保全会のみなさんからの話

「いつの日か、少子化や祭り離れにより、伝統行事を継承していくことが困難になる」こうした危惧から、平成10年5月に村松町の祭礼保全会が設立されました。現在では、44名の団体で祭礼の準備から運営までを行なっています。町会及び神楽師会等と力を合わせ、伝統を守り、後世に伝統行事を伝承していくために奮闘しています。

村松町会さんからの話

神様を乗せて町内をめぐり、災いなどを追い払ったり、また田畑を害虫から守ったりするため祇園祭（天王祭）をやっています。でもなぜ始めたのかははっきりわかりません。町内の安心安全と五穀豊穰・大漁満足を祈願し、町内の安全を願い亀池神社の神様を山車に移して、町内を回るお祭りです。



祇園祭の山車を引く様子